

「市長、出動！まちトーク in 嘉瀬」議事録

令和7年1月29日（水）

嘉瀬公民館

※意見交換の内容は要約しています。
（太字は参加者の意見、細字は市長の応答です。）

【意見項目】

- 1 嘉瀬の魅力について
- 2 水草除去について
- 3 多目的広場について
- 4 地域の情報発信について
- 5 アンバサダーについて
- 6 民生委員について
- 7 若者の転出抑制について
- 8 有明海沿岸道路について
- 9 女性の登用、社会参加について

【意見交換内容】

1 嘉瀬の魅力について

市長は、佐賀市に住まれた後、県外に出られてまた戻ってこられました。

地元にいるときと、外からその町を見たときとでは、その町の状況は違って見えるのかなと思います。

私はずっとこの嘉瀬に住んでいるので、嘉瀬に住んでいない人が嘉瀬を見たときに、「嘉瀬の良いところをどう思うのか」ということについて聞いてみたいといつも思っていました。

市長から見た嘉瀬の強み、良いところを聞かせてください。

（市長）

バルーンフェスタは、1980年から始まりました。

私が1980年生まれということもあり、「空にバルーンが浮かんでいる光景」が、原体験として、とても印象に残っています。

嘉瀬校区の皆さんには「かかしまつり」でバルーンフェスタを盛り上げていただいております、素晴らしいことだと思っています。

それから、子育てに関する活動にも熱心に取り組まれています。

また、嘉瀬校区は農業用クリークが発達していますが、これは、それだけ農業に力を入れておられるということですので、このことも強みだと思っています。

2 水草除去について

以前、外来種の水草について話を聞く機会がありました。

そのときは、外来種の水草は、根から取らないとまた生えてくるので、根から取るためにはどうするかという議論がされていたと思いますが、例えば、根からではなく表面だけでも取るロボットを作ったらどうかと思っています。

最初の投資はかかるかもしれませんが、回数を増やして繁茂する前に刈れば根から取る必要がなくなります。そういった発想の転換もあると思います。

ロボット関係の企業に、「企業等パートナー制度」に登録してもらって、一緒に開発をされたらどうでしょうか。

他県でも同じような問題があるようですので、ロボットを作ったら全国展開ができますし、例えば佐賀市で特許を取ったらその特許料も入ってくると思います。

(市長)

私も、まさに、今お話しいただいたようなことに非常に興味がありまして、実際、スマート農業関係の企業のみなさんと意見を交換しています。おそらく技術的には可能だと思いますが、テクノロジー企業がそういう課題にまだ気づいていないということもあると思います。

農水省の九州農政局の方々とも意見交換しており、国の研究機関とうまく連携していきたいと考えています。

国で検討されている、薬剤を使った「化学的防除の実証実験」についても、佐賀でしていただけるよう国と協議しているところです。

企業の皆さんにも水草について関心を持ってもらい、さまざまな開発に繋がるきっかけにしていきたいと思っています。

3 多目的広場について

この公民館の南側に隣接している土地に、約2,000坪の多目的広場ができます。

この多目的広場の方向性を具体的にお聞かせ願いたいと思います。

この広場の維持管理は嘉瀬町が行うことになると思いますが、2,000坪と非常に広大な土地の管理になります。除草作業において除草剤を使用することができるのでしょうか。

また、遊具、トイレ、駐車場などは整備される予定でしょうか。

公民館が隣接していますが、公民館利用者が多い場合は、トイレや駐車場を利用できないため近くに欲しいです。

嘉瀬の中心地であることから、多数の利用者が想定されます。

トイレと駐車場の件は、前向きに検討いただけないでしょうか。

(市長)

多目的広場は、8年前から地元の皆さんと協議してきている経緯があります。

今年度は、造成工事を予定しており、着工に向けて様々な確認をしているところですが、来年

度末の完了を目指して、整備していくことにしています。

今まで「日常的な管理は、地元でしていただく」とのことでみなさんと協議してきました。

今後、大きな修繕が必要になった場合などは、佐賀市で対応していきたいと思いますが、トイレや駐車場は、他校区でも公民館と共用していただいているところです。

今後も皆様と協議していければと思います。

防災機能も持った地域コミュニティー広場ということで、防災拠点になるとともに、日常は気軽に集う場にしていただきたいと思います。

4 地域の情報発信について

若い人から、他県から引っ越してきて知り合いがいないなか、友達をつくるためのイベントが少ないという意見を聞きます。

各公民館でもさまざまなイベントが開催されていますが、その情報がインターネットに上がってないこともあります。

若者は、インターネットから情報を得る人が多いと思いますが、地元のイベント情報が分からないところもあるので、改善をお願いしたいです。

(市長)

公民館については、令和7年10月を目途に法的な位置づけを少し変えようとしているところです。

今までは、法律上の制限により、公民館を利活用する際にお金のやりとりをするということができませんでした。

このことについて、今年度、実証実験をやっています。

例えば、公民館で大学のサークルの方と子どもたちの交流イベントの場に、キッチンカーが出てお金のやり取りをするというようなことをしています。

地域の担い手としていろんな世代の方にいろんな利用方法で活用いただきたいと思います。

そのような取組と併せて、インターネット上で簡単に予約ができるとか、情報を掲載するということは改善していきたいと考えています。

お話いただいたことを参考にさせていただきます。

5 アンバサガーについて

これからの時代は、SNSを利用することは必須だと思います。私も、ぜひアンバサガーになりたいのですが、どうしたらアンバサガーになれるのでしょうか。

(市長)

アンバサガーは、今年度300人募集しまして、ありがたいことにすでに定員に達しています。

昨日の記者会見で少しお話したところではありますが、私たちが今佐賀の地で生きてい

て『『当たり前を感じている幸せ』が観光コンテンツなんだ』というプロモーションをしていきたいと思っています。

「観光」というと観光名所がないといけない、作らないと駄目だと思われがちですが、そうではなくて、佐賀に来られた方が、人と触れ合ったり、佐賀の食を楽しんだりすることがすばらしい感動につながるということです。

それを、市民の皆さんにも発信していただきたいと思っておりまして、今度は、そちらの募集をしてみたいと思います。

「あたりまえハッピー」という名称で、「皆さんにとって当たり前の幸せは何ですか」ということで、皆さんからいただいたアイデアを可視化していき、さまざまなものに繋げていきたいと考えています。ご関心がありましたら、ぜひSNSでの投稿をお願いしたいと思います。

6 民生委員について

65歳から70歳までの元公務員を、民生委員として活用できないでしょうか。元公務員は、守秘義務が非常に固いと思います。

私が住んでいる地区は、民生委員が欠員状態です。班長が民生委員をしていますが、今の状態は良くないと思っています。以前、近くの年配者が救急車で運ばれたときも、他の地区の民生委員に動いていただいたという現状があります。

(市長)

民生委員や児童委員の皆さんは、自治会長の皆さんとお話ししていても、なり手不足が非常に大きな課題となっています。

今までの民生委員の探し方や、推薦のやり方を含め改善していくということを、我々も意識しています。

お話しいただいたアイデアは、今後の参考にさせていただきたいと思います。

7 若者の転出防止について

若者がなかなか佐賀に帰ってきません。若者に聞くと、問題は企業の雇用ではなくて福利厚生だと言います。

話を聞くと、福岡の企業は福利厚生が良い。給料+αがしっかりしている。

大学も、地方の国立大学よりも中央の私立大学が良い、アルバイトがたくさんあるからだと言います。地方の国立大学に行くと、アルバイトできるところが非常に少ないそうです。

企業の福利厚生の向上を、企業の方とお話していただけないでしょうか。

(市長)

先ほどの市政に関する話の中で、本市における人口の社会増減についてご説明しました。30代以上や15歳以下の世代は「転入」が多いなか、20歳から30歳の働く世代の「転

出」が多い状態となっていることをみると、魅力的な働く場が大事だと思っています。企業誘致という点でいえば、大和インターの近くの工業団地は全て完売しました。これから有明海沿岸道路がつながると、アクセスが良いということで、企業も関心を持ってくださると思っています。

企業では人手不足が言われているので、佐賀に戻ってきたときに「仕事がある」という状態は以前に比べると増えてきていると思います。

そうした中、今、奨学金を抱えている若い方の負担を和らげるようなサポートを考えているところです。

こうしたことが、広い意味での福利厚生につながっていると思いますので、意識しながら、若者支援について考えていきたいと思っています。

8 有明海沿岸道路について

有明海沿岸道路と佐賀唐津道路の工事が、嘉瀬で縦横にクロスする形で進んでいます。地元が非常に関心を持っていることは、「この工事がいつまで続くのか」ということです。特に、有明海沿岸道路は西から通勤する車が嘉瀬で降りるため、とても混雑しています。子どもたちの通学という面でも危険なのではないかと思っています。市の工事ではないですが、「将来、道路が完成したらこうなります」とか「いつぐらいまでかかります」といった情報を、市報や県の広報などでできるだけ告知いただきたいと思っています。

(市長)

クロスするところは「Tゾーン」と呼ばれていまして、令和10年に完成予定とされています。

県道から佐賀唐津道路へのアクセス道路(市道)につきましても、すでに着手しており、令和10年までに繋げたいと思っています。

佐賀唐津道路の「嘉瀬南インター」から「Tゾーン」までは県が事業を進めています。そこから先の東側の有明海沿岸道路は、国の事業ということになります。

これらの整備が早期に完了するように、また、進捗状況を可視化して地元の皆さんに伝えるように、私から国・県に対して働きかけていきたいと思っています。

それから、整備を進めていくには、用地買収が必要になってきますので、市としてもしっかり協力して、スムーズに進むように取り組んでいきたいと思っています。

この事業を進めるにあたっては、県の事務所に本市の職員を派遣しておりますし、様々な協議や事務調整を行っています。

引き続き、国や県と連携しながらしっかり取り組んでいきます。

9 女性の登用、社会参加について

佐賀市は、まだ男性中心の社会だと思います。

まず、市役所や公民館から、女性の登用をお願いします。

(市長)

男女共同参画は、とても大事な考え方です。

今までの社会は、どちらかというと「女性が家庭を守り、男性は一生懸命働く」という働き方を前提にして成り立っていたと思います。

しかし、女性の働き方は、単純に「専業主婦」と「共働き」という2つに分けられるものではありません。人生の中で「出産」や「子育て」、「復職」など様々な転機があり、選択肢も非常に多様化してきています。

職場では、柔軟な働き方や働きやすい職場を作ることが大事になってきますし、家庭では、女性の困りごとを男性も分かった上で、家庭ごとに対応方法は様々あると思いますが、男性の育児や家事への参画をどうやったら後押しできるのかを含めて、障害になっている部分をできるだけ無くすことに取り組んでいきたいと思っています。